



エコアクション21
認証登録番号:0006430

環境経営レポート (2024年度)

【 活動期間:2024年4月～2025年3月 】

作成日:2025年4月22日



株式会社大曽根建設

事業活動の概要

社名 株式会社 大曾根建設
所在地 茨城県ひたちなか市足崎1474番地の46
代表者 代表取締役 大曾根 理一郎
設立 1979年9月11日
資本金 ￥ 22,000,000 -
社員数 男性46名 女性4名 合計:50名
営業品目 土木工事、建築工事、舗装工事、造園工事、とび・土工工事、
水道施設工事、解体工事、産業廃棄物収集運搬、労働者派遣



ホームページQRコード

環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務課 照沼 隆夫
環境管理担当者 営業部 海老澤 稔
連絡先 電話:029-275-1888
FAX:029-275-5660
e-mail:info@k-osone.jp

各種許可 特定建設業許可(茨城県知事許可) 特-8-14727号
1級建築士事務所登録
産業廃棄物収集運搬業許可(茨城県・福島県)
ISO9001登録
労働者派遣事業許可
ひたちなか市排水設備指定工事店登録
BCP認定(建設会社における災害時の事業継続力)
EPR工法協会会員(下水道管渠非開削補修工法)
公益社団法人日本下水道管路管理業協会会員
EX・ダンビー協会会員(下水道管渠非開削更生工法)
茨城県道路里親制度認定
茨城県仕事と生活の調和推進計画策定・届出事業所
いばらき女性活躍推進会議登録
健康経営優良法人認定

対象範囲 本社 茨城県ひたちなか市足崎1474-46
資材置場 茨城県ひたちなか市足崎1531-4
建設現場

事業の規模

年度	期間	工事完成高(円)	従業員数(人)	本社延床面積(㎡)
2020	2020.4～2020.3	¥1,360,394,195	47	210
2021	2021.4～2022.3	¥1,828,289,632	45	210
2022	2022.4～2023.3	¥1,359,977,448	46	210
2023	2023.4～2024.3	¥1,299,348,127	46	210
2024	2024.4～2025.3	¥1,236,706,000	50	210

産業廃棄物収集運搬業許可(茨城県・福島県)

■茨城県 … 汚泥、廃プラ類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、
コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

(事業区分) 収集運搬
(許可番号) 00801102090
(許可年月日) 令和5年5月29日
(許可有効期限) 令和10年3月4日

(運搬車両の種類と台数)

運搬車両の種類	台数
塵茶車	3台
清掃車	1台
キャブオーバ	6台
ダンプ	5台
バン	1台

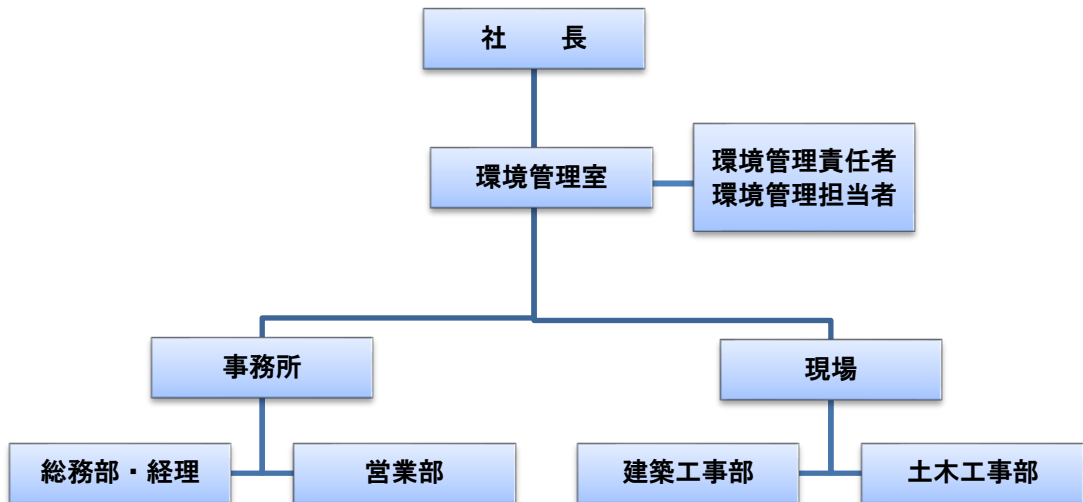
(収集運搬量)

産業廃棄物の種類	運搬量(t)
廃プラスチック類	2.66
紙くず	0.21
木くず	11.80
金属くず	2.21
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	41.27
がれき類	0.92

■福島県 … 汚泥、廃プラ類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、
コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

(事業区分) 収集運搬
(許可番号) 00707102090
(許可年月日) 令和5年6月21日
(許可有効期限) 令和10年5月21日

実施体制図及び役割・責任・権限表



	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画・環境管理組織体制を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画・環境管理組織体制を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境管理担当者	・環境管理責任者の補佐、環境管理室の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画・環境管理組織体制の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・環境経営システムの実施 ・環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施 ・環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



大曽根建設のSDGs取り組み(3つの目標)

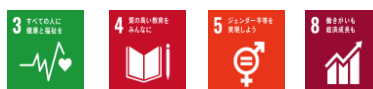
1. 安心で機能的な環境をつくる

大曽根建設は、環境に配慮しながらインフラ整備に携わることで、人々が安心して安全に暮らせる社会づくりに取り組みます。



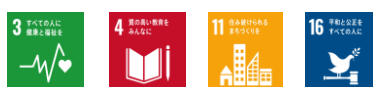
2. 企業の成長と従業員の福祉の増進を図る

大曽根建設は、社員の健康を守り、社員がそれぞれの技術力を高めるための環境づくりに取り組みます。



3. 社会の繁栄に貢献する

大曽根建設は、各団体等と連携し、平和で安心・安全な社会の実現を目指します。



環境経営方針

当社は、主に茨城県及び隣接都道府県を対象として、公共用施設等の建設工事を行っています。
当社が事業活動を行うことにより、環境へ種々の影響を与えていることを自覚し、全員で環境問題について勉強し、エコアクション21環境経営システムを構築・運用することにより、環境への取組を自主的・積極的に進めて行きます。環境への取組を進めるため、以下の事項について取組んで行きます。

1. 当社が守らなければならない環境関連法規や条例等を明らかにし、これを遵守します。
2. 環境改善のために環境目標を定め、定期的に見直し、継続的な環境負荷の低減を目指します。
3. 事業活動に伴う環境影響を低減するため、以下の活動を実施します。
 - 1)建設物の計画段階から環境に配慮した設計をお客様に提案します。
 - 2)地球温暖化防止のため、エネルギーの使用を低減し、二酸化炭素の削減に取り組めます。
 - 3)発生した廃棄物の再利用及びリサイクルに取り組めます。
 - 4)水の使用を節約します。
4. 全従業員にこの環境方針を周知させます。

制定日 2024年3月31日



株式会社 大曽根建設
代表取締役 大曽根 理一郎

環境経営目標



環境 経営 方針	項 目	基準年度	中長期目標			
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
		実績	目標	目標	目標	
－	完成高(実績)(百万円)	1,828	－	－	－	
3-1)	省エネ建設物の提案(件)	6	5	5	5	
3-2)	事務所における環境負荷(Kg-CO2)	27,442	27,168	26,893	26,618	
	[基準年度からの削減率]	－	1%削減	2%削減	3%削減	
	電気使用量の削減(Kwh)	14,825	14,677	14,529	14,380	
	ガソリン使用量の削減(L)	8,921	8,831	8,742	8,653	
	現場における環境負荷(Kg-CO2)	345,247	341,794	338,342	334,890	
	[基準年度からの削減率]	－	1%削減	2%削減	3%削減	
	電気使用量の削減(Kwh)	1,847	1,829	1,810	1,791	
	ガソリン使用量の削減(L)	35,572	35,216	34,860	34,504	
	軽油使用量の削減(L)	104,045	103,004	101,964	100,923	
	3-3)	産業廃棄物のリサイクル率(%)	99.8	99.8	99.8	99.8
[基準年度からの向上率]		－	基準年以上	基準年以上	基準年以上	
3-4)	水使用量の削減(m3)	87	86	85	84	
	[基準年度からの削減率]	－	1%削減	2%削減	3%削減	

(注1)2022年度は2021年度からの中長期計画の2年目にあたる。

(注2)2022年度購入電力のCO2排出係数は、0.376kg-CO2/kWhCO2:2022年度東京電力係数)とした。

(注3)化学物質は使用していない。

環境経営計画と実績



2024年度[活動期間:2024年4月～2025年3月]

項 目		活 動 内 容	2024年度	2025年度	取組状況	取組部門	責任者
省エネ建設物の提案		管路更生工事の推奨	通年	通年	○	営業部	営業部長
CO2排出量削減	電力使用量削減	エアコンの室内温度設定(夏場27℃冬場20℃)	6～8月/ 12～2月	6～8月/ 12～2月	○	事務所	総務部長
		照明の個別スイッチで必要最低限の使用とする	通年	通年	○	事務所	総務部長
		休み時間や席を外す場合はこまめに消灯する	通年	通年	○	事務所	総務部長
		使用していない電気器具はコンセントから抜く	通年	通年	○	事務所	総務部長
		PC・コピー機等のO・A機器は省電力設定する	通年	通年	○	事務所	総務部長
	燃料使用量削減	低燃費車への乗換え	通年	通年	○	総務部	総務部長
		アイドリングストップの実施	通年	通年	○	共通	工事部長
		重機・車両の適切な点検整備	通年	通年	○	工事部	工事部長
		効率の良いルートでの移動	通年	通年	○	共通	工事部長
		同一現場への移動は乗合せて車両の台数を減らす	通年	通年	○	工事部	工事部長
		低騒音・排出ガス対策型重機の使用	通年	通年	○	工事部	工事部長
産業廃棄物のリサイクル率の向上		リサイクル率を上げる	通年	通年	○	工事部	工事部長
		産業廃棄物の適正処理とリサイクルの促進	通年	通年	○	工事部	工事部長
		リサイクル材の使用	通年	通年	○	工事部	工事部長
廃棄物排出量削減	一般廃棄物	ゴミ分別の徹底	通年	通年	○	事務所	総務部長
		両面印刷、ミスコピーの再利用、事務用品の共有	通年	通年	○	事務所	総務部長
水使用量削減		常時節水に心がける	通年	通年	○	共通	総務部長
		井戸水を有効利用する	通年	通年	○	共通	総務部長
社会貢献活動		ボランティア・地域環境活動への参加	通年	通年	○	工事部	総務部長
		緊急井戸の利用・周知	通年	通年	○	事務所	総務部長
		AED設置の周知	通年	通年	○	事務所	総務部長

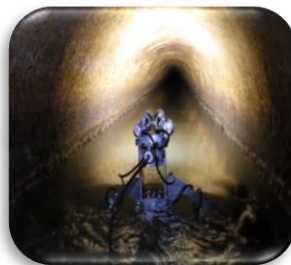
取組状況の凡例:良好＝○・普通＝△・是正が必要＝×

環境経営の取組

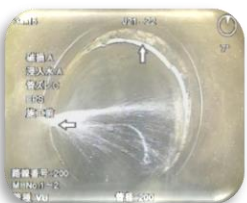
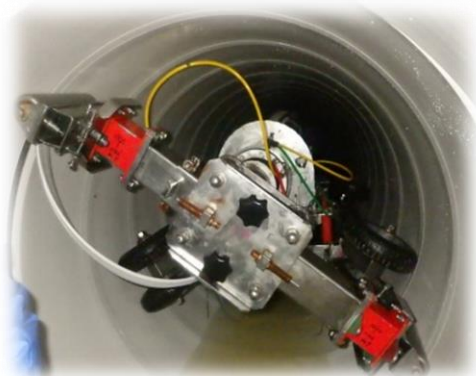


▼環境に配慮した建設物の提案・建設副産物の削減(管路TVカメラ調査・更生工事の推奨)

管路TVカメラ調査



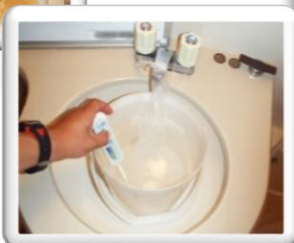
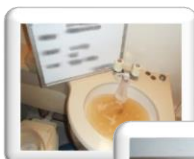
管路更生工事



▼環境に配慮した建設物の提案(太陽光発電所新設・改修)



▼環境に配慮した建設物の提案(水道管オゾン洗浄)



環境経営の取組



▼電力使用量の削減(太陽光発電設備・事務所内の共有部のセンサー照明・個別スイッチ)



▼燃料使用量の削減(低燃費車への乗換え)



▼廃棄物排出量の削減(ゴミ分別の徹底・両面印刷、ミスコピーの再利用、事務用品の共有)

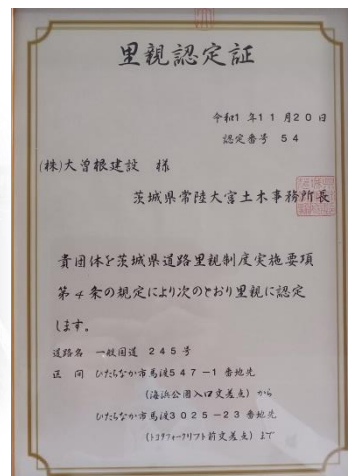


環境経営の取組



▼社会貢献活動(ボランティア活動への参加)

・茨城県道路里親ボランティア活動



▼社会貢献活動(地域環境活動への参加)

・茨城県道の日クリーン作戦・那珂川クリーン作戦・大洗港湾クリーン作戦



▼社会貢献活動・水使用量削減(井戸水の有効利用・緊急井戸の利用・周知、AED設置の周知)



担架格納箱

環境経営実績

2024年度[活動期間:2024年4月～2025年3月]

環境 経営 方針	項 目	基準年度	目標と実績と評価					
		2021年度	2024年度(絶対値)			2024年度 (原単位値)参考		
		実績	目標値	実績値 達成率		目標値	実績値 達成率	
—	完成高(実績)(百万円)	1,828	—	1,299 —	評価	1,828 基準年の 実績	1,236 67%	評価
3-1)	省エネ建設物の提案(件)	6	5	5 100%	⑤	5	3 40%	②
3-2)	事務所における環境負荷(Kg-CO2)	27,442	26,618 -3%	23,198 118%	④	26,618	15,542 142%	⑤
	電気使用量の削減(kwh)	14,825	14,380 -3%	8,699 140%	⑤	14,380	5,828 159%	⑤
	ガソリン使用量の削減(L)	8,921	8,653 -3%	8,588 101%	④	8,653	5,753 134%	⑤
	現場における環境負荷(Kg-CO2)	345,247	334,890 -3%	149,007 156%	⑤	334,890	99,834 170%	⑤
	電気使用量の削減(kwh)	1,847	1,791 -3%	1,622 109%	④	1,791	1,086 139%	⑤
	ガソリン使用量の削減(L)	35,572	34,504 -3%	37,200 92%	②	34,504	24,924 128%	⑤
	軽油使用量の削減(L)	104,045	100,923 -3%	24,066 176%	⑤	100,923	16,124 184%	⑤
3-3)	産業廃棄物のリサイクル率 (%)	99.8	99.8 100%	98.5 98.7%	②	99.8	65 135%	⑤
3-4)	水使用量の削減(m3)	87	84 -3%	107 79%	②	84	71 115%	④

(注1)2021年度を基準年度として3年分の環境目標を立てた。当年度(2022年度)はその2年度目である。

(注2)2023年度購入電力のCO2排出係数は、0.376kg-CO2/kWhCO2:2022年度東京電力係数)とした。

(注3)化学物質は使用していない。

(注4)原単位＝売上高ベース

(注5)評価の基準

①目標を達成していないので、是正処置が必要(90%未満)

②まだ改善の余地がある(100%未満)

③目標を達成J(100～104%)

④目標を十分に達成(105～119%)

⑤目標を完璧に達成(120%)

(注6)売上原単位を原単位と表現 原単位＝数値÷売上額

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2024年度[活動期間:2024年4月～2025年3月]

▼法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）		状況
廃棄物処理法	第3条	一般廃棄物、 産業廃棄物(コンクリート、アスファルト・コンクリート、木くず 等)	遵守
建設リサイクル法	第5条	建築建造物及び土木建造物	遵守
道路交通法	第24・32・77	道路使用・占用許可、継続して道路を使用する対象物件の許可	遵守
浄化槽法	第3条	浄化槽	遵守
フロン排出抑制法	第16条	業務用エアコンの簡易点検	遵守
騒音規制法	第2条～	著しい騒音を発生する作業であって政令で定めるもの	遵守
振動規制法	第2条～	著しい振動を発生する作業であって政令で定めるもの	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は全て遵守されていました。
なお、違反、訴訟等ありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

2024年度[活動期間:2024年4月～2025年3月]

- ① 省エネ建設物の提案については、目標・想定以上に受注できた。
実績や結果の紹介、ホームページ等により営業を強化し、さらに受注件数を増やしていきたい。
- ② 受注する工事箇所や内容により、移動距離や重機械等の稼働、産業廃棄物量の変動が大きく、目標設定及び実績の比較検討が困難である。移動手段やハイブリット重機等の使用の見直しをはかる。
現時点では従業員の意識レベルの向上が最善の策と考えPDCAサイクルを継続していきたい。
- ③ 水の使用量については井戸水の水質悪化の為、上水に切替を行った結果、使用量が増えた。今年度を基準年度とし、次年度より目標を改定する。